二刻醒國志

十

特59
78

下野國誌十一之卷

芳賀面蛙戮智直守弘識

古城盛衰

東京帝國大學圖書之印

都賀郡小山驛ふあて往還筋の西乃方にて思川の東岸にあり、下野大掾政光こゝに築く保元平治の年間なり、

小山系圖

大織冠鎌足公五代嫡孫
正二位左大臣魚名公五男
○藤成　從四位下下野大掾伊勢守大宰大貳毋津守氏女、

豐澤

後四位上下野大掾備前守母下野史生鳥取業俊女一本作下野權守

村雄

後五位上下野大掾長門守母下野史生鳥取豊俊女一本作下野大掾河内守

秀郷

後四位下下野大掾武藏守母常陸掾鹿島女天慶三年庚子四月廿五日任鎮守府將軍世稱田原藤太天曆十年丙辰四月廿日卒号東明寺殿

系譜一本ニ承平二年壬辰十月廿一日到近江國勢多依龍神憑入龍宮城其冦射殺三上山蜈蚣而自龍神得十種之神寶云々ト是ハ唐土ノ小説ニ唐の敬宗皇帝の寶歴年中ニ將武と云弓の達人ありしが一日猩々来て云吾友ニ白象あり其類族悉く巴蛇の為ニ害せらる願くハ公彼巴蛇を退治して白象を助け給へと云將武諾して猩々と伴ひ行其所ニ至り巴蛇を射殺し數多の象牙を得て資財をゆたかなること附會して巴蛇を蜈蚣ニ替へ白象を龍神ニ比しかるものなんと或人ハ云りさもあらべし巴蛇の説を信ずるハ猶龍神のごとく論ずべし

藤原秀郷朝臣之像

号俵五百道權現云々

近江國勢多雲住寺安置

水門を米多ゑすりて
射ら れ た る
藤太イ
そらもあてらるゝかな

保元物語ニ此歌ハ藤六左近と云者のよめりしゆ

安蘇郡佐野莊吉水村ニ朝臣の廟あり大なる塚の上ニ小祠あり田原八幡と崇め祭れり

千晴　從五位下相摸权鎮守府將軍奥州秀衡及蒲生寺之祖

千常　從四位下下野守毋源侍從通定女天祿元年庚午正月十五日任鎮守府將軍一本作美作守左衛門尉

千方　從四位下下野押領使陸奥守天元二年己卯正月廿日任鎮守府將軍一本作智方

文脩　從五位下下野押領使内舍人頭永延三年己丑正月十日任鎮守府將軍一本作文條又公脩

文行　從五位下左衛門佐毋鎮守府將軍藤原利仁女任左衛門佐故子孫号佐藤又近藤武藤後藤尾藤首藤小野寺等之祖別在系

靜光　從五位下下野大权阿波守毋同上長德四年戊戌正月十五日任鎮守府將軍

兼行　從五位下淵名大夫足利佐野阿曽治寺之祖別在系

頼行　從五位下下野大掾安房守左近將監治安三年壬戌正月廿九日任鎮守府將軍本下野守

武行　太田壹岐守判官改行範

女子　相模守公光室公清母

行高　下野大掾太田權頭實武行男叔父頼行無嗣子故家督　宗行　下野大掾太田大夫

行政　下野大掾太田次郎大夫　永承六年辛卯六月七日從于源頼義朝臣而高奥州云々

行光　下野大掾太田四郎　政家　大潟五郎又大方後作大寶常陸國住人

政平　関次郎住大寶関館大寶関寺之祖

辨覺　見山座主中興開基号光明院住大僧正云々

行廣　太田太郎母秋田又太郎重綱女　行朝　太田權頭号小權頭太田梁田寺之祖

行方　大川戸下総權守三郎母同上大川戸清久高柳寺之祖

政光　從五位下下野大掾小山小四郎法名蓮西所領凡一万餘町云々母同上

行義　下河邊庄司五郎治承四年合戦從源三位頼政卿而頼政卿討死之刻携其首級帰古郷葬之云々今有其墓矣下河邊川俣幸島平方寺之祖

女子　那須太郎資隆室森田太郎光隆母

下河邊と云八今の古河駅なり小山神鳥谷粟寺開山光佛房も下河邊行義の二男なりと云

頼経　吉見三郎初名朝信武藏國住人吉見太郎源頼茂家督母頼茂女

朝政　下野守從五位下小山左衛門尉判官小四郎母宇都宮下野權守藤原宗綱女法名生西嘉禎四年戊戌三月晦日卒八十四

宗政　從五位下淡路守長沼五郎左衛門尉母同朝政長沼瞥川等之祖別在系

朝光　上野又從五位下結城七郎左衛門尉母同上初名宗朝下総國住人

東鑑ノ治承四年十月二日辛巳今日武衛御乳母故八田武者所宗綱息女小山下野大掾政光妻号寒川尼相具鍾愛末子參高隅田宿則召御前令談往事給以彼子息可令致昵近奉公之由望申仍名出之自加首服給取御烏帽子授之給獅小山七郎宗朝後改朝光今年十四歳也云々

同五年閏二月廿日丙寅武衛伯父志田三郎先生義廣忘骨肉之好出常陸國到下野國小山小四郎朝政在下野國雖不被仰遣之励勲功欲之由令特其武勇給依之朝政之弟五郎宗政并從父兄弟關次郎政平等為成合力各今日發向下野國云々同廿三日朝政出本宅令引籠于野木宮義廣到于彼宮前之時朝政廻計義而令人昇登々呂木沢地獄谷寺林之梢令造時聲義廣周章迷惑之処朝政郎從太田管五永代六次和田次郎池次郎蔭澤次郎并七郎朝光郎等保志黒三郎等攻戰朝政時年廿五朝光年十五云々

宗政年廿自鎌倉向小山義廣乳母子多和山七太射取云々彼朝政曩祖秀郷朝臣天慶年中追討朝敵平將門并往武藏下野両國守令叙從四位下以降傳勲功之跡久護當國為門葉棟梁也云々

建久三年九月十二日辛巳小山左衛門尉朝政先年募勲功浴恩沢常陸國村田下庄也而今日賜政所下文其状曰

将軍家政所。下　常陸國村田下庄。下妻宮等

補任地頭職事

左衛門尉藤原朝政

右去壽永二年三郎先生義廣發謀叛企鬪乱爰朝政偏仰朝威獨欲相禦即待具官軍同年二月廿三日於下野國野木宮邊合戰之刺抽軍功畢仍彼時所補任地頭職也庄官宜承知不可違失之状

所仰如件以下ス
建久三年九月十二日

令民部少丞藤原
別當前因幡守中原朝臣
下総守源朝臣

案主藤井
知家事中原

こゝに案主藤井とあるハ俊長、知家事中原ハ光家、民部少丞藤原ハ行政ゝて、前因幡守中原朝臣ハ廣元、下総守源朝臣ハ邦業なりさて此状ハ壽永二年とあるハ非ゝて治承五年なり、傳寫の誤ゝそしあるべし

朝長　後五位下下野權守新左衛門尉又四郎

長村　出羽守従五位下五郎左衛門尉判官母中條宗長女

朝村　従五位下左衛門尉領河内郡藥師寺郷別在系

東鑑ゝ建長二年庚戌二月廿八日の条ゝ下野大炊職者伊勢守藤成朝臣以来至小山出羽前司長村十六代相傳云々

時長　従五位下下野大掾五郎左衛門尉

時朝　修理大夫領同郡藤井郷

宗朝　藤井出羽守藤井大禍野口寺之祖

宗光　七郎左衛門尉領同郡塚崎田間両郷

宗貞　塚田七郎左衛門尉

女子　相摸三郎時利室時利北条時頼長男後改時輔在六波羅依逆心被討赤橋義宗

東鑑ゝ正嘉二年四月廿五日相摸三郎時利嫁小山出羽前司長村娘とあり、

宗長　従五位下五郎左衛門尉母守都宮下野守泰綱女

貞朝　下野守従五位下四郎左衛門尉鎌倉評定衆

秀朝

判官建武二年乙亥七月十三日於武藏國府中討死

氏政

從五位下下野大掾

隆政

惡四郎若犬丸應永四年丁丑正月十五日於奥州會津討死

義政

從五位下下野大掾法名永賢永德二年壬戌四月生害

朝氏

小四郎

太平記ニ小山出羽入道同判官秀朝元弘のそゝめ、千破矢の寄手の中ふゝめ、其後秀朝ハ武藏國ニて、相模次郎時行と戰ひ討死をゝ、ゝゝめ秀朝以來若犬丸まで、宮方ふ屬して變ぜざる、當國ふ小山のゝれて、續太平記ニ康曆二年小山下野大掾義政と宇都宮左馬頭基綱と戰て基綱討る、鎌倉の左兵衛督氏滿私の意趣ニて合戰ニ及び、事を怒て、小山義政を誅ス云〻

南朝紀傳ニ康曆二年庚申五月野州嶺原ニ於て小山下野守義政と宇都宮左馬頭基綱と私ニ合戰して基綱討る、同三年辛酉鎌倉の左兵衛督氏滿進發して小山を攻る、同年改元有て永德元年七月廿四日小山退治して上杉安房守憲方鎌倉を立て小山ニ向ふ氏滿ハ武藏國の府中ふ出張して高安寺ニ陣を取る、義政戰ひ勞れて九月十九日降參ス則出家して法名を永賢と云、上杉安房守ニ謁ス然れども氏滿の陣所へ參らず、同二年壬戌四月義政誅せらる云〻同至德三年丙寅六月廿六日、關東の宮方小山若犬丸（義政子）下總國古河の縣ニ蜂起ス鎌倉より野田上野ゟ馳向て討死ス應永二年乙亥正月小山若犬丸退治して鎌倉の氏滿古河の縣ニ向ふ、三月廿八日若犬丸敗軍して奥州ニ赴く云〻と櫻雲記ニ元中三年（北京至德三年）六月廿六日小山若犬丸（義政子宮方）下總國古河邊ニ屯ス、鎌倉管領氏滿大軍ヲ發シ古河ニ至テ鬪フ鎌倉勢敗ス野田上野ゟ戰死ス上杉兵庫助憲孝（憲方子）後陣ヨリ兵ヲ進メ突テ掛ル小山カ備亂レテ退散メ常陸ヘ走ル元中四年（北京嘉慶元年）小山常州（完戸）男躰の城ハ完戸の西の方ニて愛宕山の北ふ古城跡あり（ハ山）

道禪助十月廿四日發向メ攻戰フ同五年七月没落應永二年六月奥州ニ走ル田村庄司則義小田五郎藤綱等一味ノ防戰ス終ニ敗亡ノ同四年正月十五日若犬丸同國會津ニ至テ戰勞レテ自害ス同廿四日其子二人七歳ニ五歳芦名左京大夫直盛見ヲ生捕鎌倉ニ倡行、則六面ノ濱ニ沈メラル云〻と

續太平記ハ小山義政ガ孽子赤房丸乳母ハ助ラレ奥州田村ニ成長シ、小山惡四郎隆政ト名乘リ叛逆ヲ企ツ〳〵ラ〳〵終ハ打負テ應永六年蝦夷ヘ渡リ忽敦世ト云者ノ聟ト成テ荒人神ト崇め祀ラ〳〵ラ〳〵ヲ記シ〳〵ラ〳〵ハ、會津塔寺村八幡日記ニ應永六年十月十日小山惡四郎隆政ト、上杉右衛門佐氏憲ノ下知ト〳〵テ、小山新左衛門尉泰朝結城中務允滿廣長沼若狹守政連宇都宮等一万餘騎ヲ以テ攻戰云〳〵ト記シ〳〵リ、是ハ於テ小山ノ正脉ハ断絶シテ、結城新左衛門尉泰朝小山ノ家名ヲ相續セリ、

重興小山系圖

小山下野大掾政光四男
結城朝光八代彈正少弼基光二男

○泰朝　小山下野守新左衛門尉法名号聖安寺

廣朝　太膳大夫左馬助改名滿泰

氏朝　結城中務大輔叔父滿廣家督嘉吉元年辛酉四月十六日於結城討死年四十四法名圓通院勝山明永

持政　左馬助

良郷　大石彈正近江國栗田郡大石住人

氏郷　小四郎

女子　宇都宮下野守等綱室明綱母

成長　判官一本作重長實山川景胤男法名太中存孝

山川系圖ハ、結城氏朝弟山川三郎基義二男景胤男トアリ、然ルニ成長ノ實祖父基義ハ小山泰朝ノ三男ナルベシ、

政長　右京大夫七郎初政昭法名大雄存悅

- 高朝　下野守入道運久實結城政朝二男天正二年甲戌十二月晦日卒六十七法名天翁孝運
- 女子　石川弥太郎源時通室小十郎朝成母
- 秀綱　小山彈正少弼小四郎初名氏朝又氏秀法名孝山
- 重朝　富岡主税助上野國富岡對馬守宗朝家督
- 晴朝　結城左衛門督秋久左近將監政勝家督

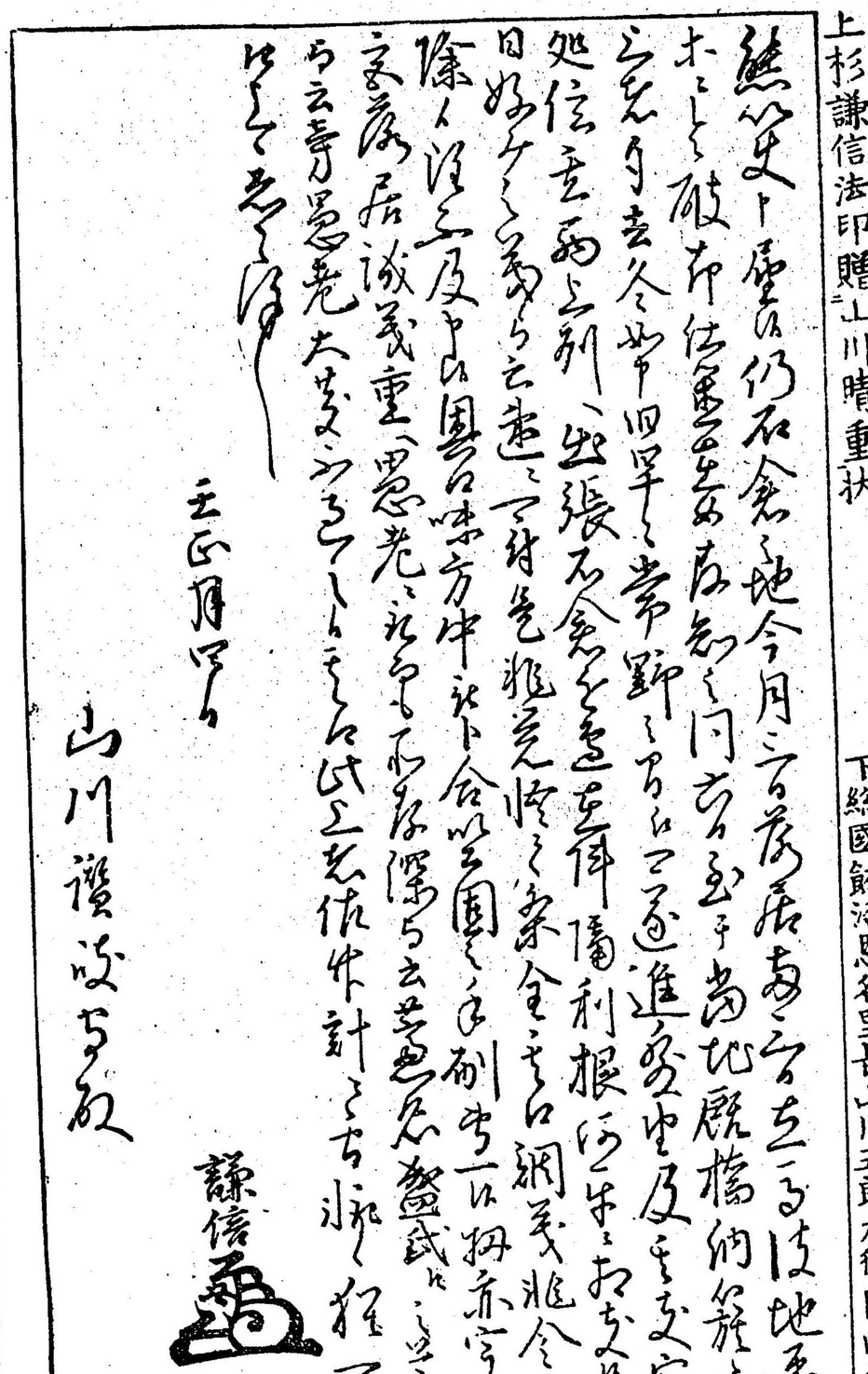
結城系圖小氏朝の末弟小富岡八郎久朝あり然らば是も小山泰朝の末子なり、

- 政種　下野守初名朝宗母成田下総守藤原氏長女幼名伊勢千代丸
  - 秀廣　小山小四郎母北条左京大夫平氏政女
    - 女子　那須左京大夫資景室資重母
- 高綱　榎本美濃守領同郡榎本郷
- 女子　那須修理大夫藤原資晴室資景母
- 秀常　小四郎
  - 安勝　刑部
  - 秀勝　小四郎仕水戸家

東國擾乱記ニ弘治四年戊午二月廿八日改元有て永祿と号ス今年奥州會津の芦名左京大夫盛氏越後の上杉輝虎入道謙信方へ東國出陣の義を勸めゝ謙信も兼て其催ゝ有る故赤井福岡等を先陣として下野ニ發向ゝ小山七郎政昭ガ祇園の城を攻る當家ハ田原藤太秀郷の嫡流ゝて東國第一の名家なれども近年威勢を失ひ宇都宮小田等ニ領地をせばめられ漸く結城の麻蔭を受くゝ社稷を保ちがたく今七郎幼稚ニて殊ニ病身なるニ依て結城左衛

門督政勝の弟高朝、天文年中より小山より移りて陣代を勤め、家事軍務を執り行く下野守に任じ、一戰に及ばず旗を捲て降参に云々

上杉謙信法印贈山川晴重状　下総國飯沼恩名里長山川五郎左衛門所藏



同元亀三年壬申閏正月中旬、相摸の北条氏政が下知として、秩父新六郎氏邦、太田十郎氏房、松田左馬助定重等、武蔵相摸の軍勢を駈催し、下野小殿向に小山彈正少弼秀綱が祇園の城に押寄せ攻るが、譜代の旗下妹尾三河守、岩上伊勢守、細井左京大橋三次郎、其外清水、高橋、黒川、青木、塚原、上原、山中等、身命を惜まず防ぎ戰ひ、故に寄手引退く云々

其後氏政の女を男政種に娶て和睦とのひられ、北條家に属しぬ、然れども天正十八年小田原没落の後、豊臣殿下降参の義を再應願ひ、遂に許容なく、同年七月七日没収せられ、牢浪の身となり、武蔵の就鳥宮に潜居し、蒲生飛彈守氏郷奥州會津入部の刻、先祖同根の因縁以て千石の知行を宛行ひ、成田下総守氏長が聟なれば、成田に奥州中山の城を守らせ、此時小山家重代の旗幕等を蒲生に譲り、蒲生も秀郷朝臣の末葉なれば、紋い翔鶴に松皮菱なり、此時より二頭左巴に改めて云々、蒲生家断絶の後、水戸家に仕へ、子孫連綿、秀綱の弟其古河公方義氏朝臣に近せしが、其後孫は古河の城下にありて小山觀音寺と号し、喜連川家なり、其一族連綿として大久保加賀守殿の家臣に小山左右次郎と云人あり、御直参に小山新三郎

と云人あり、一槁御殿の附衆なり、小山泰藏と云人あり、さてまた、淺野内匠頭殿の忠臣大石内藏助も、小山廣朝の二男彈正良郷が後孫なり、榎本美濃守高綱が末孫、今武州多磨郡に殘りてありと云、又御直參にも榎本林右衛門と云人あり、近世俳諧の發句ホ名と得る、其角も榎本氏なり、

長沼城

芳賀郡長沼郷太田村にあり、長沼五郎左衛門尉宗政てしめく築く、元暦元年甲辰にあり、

長沼系圖

小山下野大掾政光三男

○宗政　後五位上淡路守五郎左衛門尉法名生蓮母宇都宮下野權守藤原宗綱女延應二年庚子卒八十歲所領九五千餘町云〻

宗政が武勇、東鑑に往々見えたり、元暦元年二月五日一谷合戰の刻を、蒲冠者範頼に屬して出陣せり、

建暦三年癸酉九月十九日丙辰未尅日光山別當法眼辯覺進使者申云故畠山次郎重忠末子大夫阿闍梨重慶篭居當山麓根聚軍人企謀叛之由申之長沼五郎宗政候當坐之間可生虜重慶之趣被仰含之云〻同廿六日癸亥天晴宗政自下野國斬重慶首持參之由申之將軍家仰曰重忠本無過而蒙誅其末子法師縱雖挿隱謀有何事哉先令生虜其身就犯否左右可有沙汰之處加戮誅楚忽之議為罪業之蒙御氣色而宗政怒眼云於件法師者敕逆之企無其疑又生虜條雖在掌内直令具參者就諸女性比丘尼等申狀定有宥免沙汰欤之由兼以推量之間如斯加誅罰者也於向後者誰輩可抽忠節乎是將軍家御不可也凡右大將家御時可厚恩賞之趣頻以雖有嚴命宗政不諾申只望給御引目於海道十五箇國中可紀行民間無禮之由令啓之間被重武備之故悉給一御引目于〻為逢屋重寶當代〻歌鞠為業武藝似廢〻女性為宗勇士如無〻又没收之地者不被充勲功之族多〻以賜青女等所謂榛谷四郎重朝遺跡給五條局以中山四郎重政跡賜下總局云〻此外過言不可勝計云〻而退出と記し、宗政此時五十二歲なり、其強直ナ〻知るべし、こゝに將軍家とあるハ右大臣實朝公なり、さて〻日光山の入口石屋町の上ホ龍藏寺と云古寺ありて是重

慶が住し所なりと云、天台宗にて今は妙道院の末寺なり、
承久三年壬午六月の合戦に六十歳にて出陣し生虜清水寺敬月遠流
宗政下知云くとなり、敬月法師は歌に依て死刑を赦し云く、為家卿の末子なり
和なれは有をなくてきゆるものを八十うち河の水はやはと　敬月
嘉禎四年戊戌二月、将軍家上洛の供奉し此年宗政七十八なりにて其後
延應二年庚子卒八十と系圖にあり、

時宗　従五位下淡路守式部大輔四郎左衛門尉

政能　左衛門尉領長沼荘大曽郷一本政泰

政頼　大曽三郎

宗負　皆川左衛門尉弥四郎領都賀郡皆川荘別在系

宗泰　従五位下式部大輔左衛門尉長沼亦四郎

時村　宮森七郎領皆川荘宮森郷

長政　従五位下判官藤五郎

政保　従五位下刑部少輔亦五郎

秀行　従五位下越前權守皆川山城守廣照之祖別在系

宗保　従五位下壹岐守藤五郎初名長宗法名覺叟

宗光　駿河守従五位下監物藤五郎法名融覺世曰惡五郎入道有武功自久明親王賜菊紋遁世而住鎌倉新御堂後於宮森建立松樹院觀應二年辛卯八月六日寂七十九号松樹院悟峯融覺

宗次　四郎左衛門尉入道法名覺蓮属新田義貞挙義兵

宗親　駿河權守亦四郎法名道覺永德三年癸亥三月六日府一代之合戰六十一度終無敗軍云々

宗明　五郎左衛門尉一本作宗章在鎌倉住于左兵衛督基氏也後孫長沼吉兵衛朝之仕于松平隱州候

宗恒　駿河守亦四郎法名覺帰為祖父宗光入道於長沼郷建立于宗光寺号新御堂山宗光入道依往居鎌倉新御堂也云々

宗明宗朝政高兼宗、宗盈、宗信、政之、朝之ハ至て八代なり、代々藤五郎と称し、

宗干　駿河守藤四郎法名一露覺無

宗仲　亦四郎　光能　亦四郎改政連

特晴　左近将監法名号三密院　秀政　壹岐守法名寂岩覺明

朝重　駿河守初名泰重文明三年辛卯五月五日後古河公方成氏於古河討死六十三歳法名順誉覺道

重晴　富田十郎都賀郡富田住人

館林盛衰記ハ都賀郡藤岡城ハ富田又十郎とあるも此後孫なるべし、

重政　亦四郎　宗秀　五郎左衛門尉

宗延　駿河守一本作宗近仕古河公方晴氏　宗隆　主税助

宗賢　肥前守

宗廣　遠江守天正六年庚寅四月九日於氷田原討死　政忠　筑前守改石川

持宗　治部大輔藤五郎法名号乗蛮院輝德総覺永享十年戊午十二月八日鎌倉持氏父子乞命東八箇國大名十三人連判之内也数度有武功云々

光廣　宮内左衛門尉嘉吉元年辛酉冨月結城攻之先陣有武功云々

瑞鳳　相國寺長老周鳳法嗣

成宗　讃岐守亦四郎文明八年丙申六月朔日卒法名号大英院雄心智存自宗光代至當代而六代兼領長沼莒森二莊四千三百貫文也足利成氏君元服之時勤理髮役云々

政常　亦四郎

宗純　新四郎早世

宗春　讃岐守亦四郎天文十年壬寅閏三月七日卒法名号信教院諦觀智光仕于芦名遠江守平盛詮

和光　掃部助

光寛　主税助再住舊領莒森天正四年丙子十月十日没法名号本正院義山道高

光隆　因幡仕備後福山侯

太平記小長沼四郎左衛門入道、まゝ長沼駿河守宗恒等往々ゝあり、續太平記小長沼駿河入道、同沼部大輔持宗等ゝそゝいさで長沼家ハ初祖淡路守宗政より讃岐守成宗より至りて、十二代長沼の城主ゝりゝが鎌倉公方とびゝより依て、長沼の一族ゝ残らず退轉ゝ其孫讃岐守宗春ハ奥州會津の芦名遠江守盛詮をゝのゝて彼家の被官となり、天文十一年壬寅閏三月七日ゝ卒ゝ其男光隆光寛の兄弟ハ芦名家没落の後再び舊領莒森小立帰り明戸と云所小潜居せゝが光隆ハ阿部伊勢守殿ゝ名出さゝれゝく備後國福山小移り其後孫森戸金七郎と号ゝゝ今連綿ゝゝ森戸と氏を改めゝゝ莒森の明戸小住る故なり

云、光寛ハ笘森ニ留り、其後孫ハ民間ニ下りて有りしが、其隣郷杉木駅ニ
も大槁養彦と云醫師あり、是も光寛が末孫にて、系譜の古文書を藏せり、
長沼五郎左衛門尉宗明が後孫ハ、松平隱岐守殿に勤仕して、長沼吉兵衛朝之
と云、毎歳長沼宗光寺へ香花料百疋づゝ寄贈しくれり、改選系圖五十の巻ニ、
長沼吉兵衛朝之、知行二千五百石、後剃髪号閑齋、慶長十八年癸丑三月廿五日
卒九十歳、其女を通と称し、長沢松平上野介殿の老臣小野能登守の養女
とかゝ、依て小野於通と云、池田家の長臣塩川志摩守に嫁して、女子一人
を生む、後離別して女子を連て、後光明院の女御新上東門院に奉仕し
門院崩じ給ひし後、豊臣秀頼公の御簾中の御介添となり、其後
東福門院に奉仕して、金二百両と百人扶持とを給ひ、門院御慰の為
に浄瑠璃姫の事を十二段に作りて奉る云、其娘も才女にして、真田河
内守信吉に愛せられし、真田勘解由を生む、通女も老後に信濃國
へ迎られし、赴く刻よめる歌に
姥捨の山にはらはらと名ゝきして車にしたがひてゆくこゝろ
さて長沼氏ハ清水御殿の附衆に、長沼宗次郎と云人あり、仙臺の家士に長沼
左佐と云人ありて、石川中務少輔殿の臣下なり、長沼好藏あり、

皆川城

都賀郡皆川村にあり、皆川四郎左衛門尉宗員、てしめくに築く、寛喜
年間なり、

皆川系圖

長沼淡路守宗政嫡孫

○宗　員　皆川四郎左衛門尉

宗　長　四郎左衛門尉

宗　村　淡路守

宗　景　三河守従五位下

宗　俊　亦四郎法名宗覺

秀　俊　八郎

宗　則　亦四郎

宗常　亦四郎　法名通覺　元亨三年癸亥二月四日生害

皆川四郎左衛門尉宗員より、亦四郎宗常に至る六代相續して鎌倉の執權北条相模守高時に背きて、元亨三年二月四日、宗常生害し所領没収せられて斷絶に及べり其後百餘年を經て嘉吉の頃同姓長沼越前守秀行が後孫、淡路守秀宗此所に移住して再び皆川と名乗る子孫繁昌せり、

重興皆川系圖

長沼淡路守宗政嫡孫
式部大輔宗泰男

○秀行　從五位下越前權守判官下総國府田井住人

宗秀　淡路守新左衛門尉正和三年甲寅七月移奥州岩瀬

宗行　從五位下淡路守本作宗千駿河守

秀直　從五位下淡路守

一本に宗千駿河守と記したるは非なり宗千は長沼系圖にたがひて時代違へり

義秀　從五位下淡路守

滿秀　藤五郎　早世

憲秀　從五位下淡路守貞治二年癸卯十月移會津田島

秀光　紀伊守從五位下嘉吉元年辛酉三月二日於皆川卒九十六

宗秀　從五位下淡路守永享十年戊午八月朔日於鎌倉生害

氏秀　從五位下淡路守領皆川庄五十餘郷文明十二年庚子九月二日卒法名龍勝明川

智光　太平山坊中光泉坊初名中納言

氏神春日大明神を城山の東方に勸請して東宮大明神と祝祭せり、

宗成　官内少輔始号皆川大永三癸未十月三日於都賀郡川原田與宇都宮忠綱合戦而討死法名心月院禪性宗成今其地曰合戦場云々

成明　長治又次郎與舍兄宗成共於川原田討死法名安翁明泰

成忠　富田左衛門尉

忠宗　富田駿河守

成勝　皆川山城守天文廿辛亥二月廿六日卒八十五法名皆川院建幢成勝

宗基　長治大隅守續毋方苗字号齋藤

秀隆　齋藤左衛門天正十六戊子十月十日於栗野與佐野合戰討死

俊宗　皆川山城守天正元癸酉九月十日於下総國府田井討死四十九法名心鉄院傑岑文勝

廣勝　長治彈正少弼廿九歳卒法名等壽山良勝

宣英　太平山別當般若寺住持中興正世元和八年壬戌五月二日寂

廣照　從四位下山城守入道賢哲元和二年丙辰蟄居同九年癸亥十二月男隆庸於常陸國府中賜二万石寛永四年丁卯十二月廿日卒八十法名三清院善翁慶勝

俊勝　伊豆守平右衛門尉初木城代小山御陣之節賜五百石孫在京都

隆庸　從五位下志摩守後山城守正保二年乙酉二月五日卒五十子時大夜任番法名陽院春岩紹知

成郷　又三郎正保二年乙酉六月四日卒廿三法名遍凉院南室紹清

慶隆　左京依舍兄早世家督賜五千石子孫代々任山城守

東國擾乱記ハ長治五郎宗政四代の孫越前權守秀行ハ下総の國府の田井ハ住ハ依ゝ田井判官と云其嫡男淡路守宗秀奥州白河郡岩瀬ハ移て五代ゝ不住ハ同憲秀の時ハ會津田島ハ所替ーて四代ゝ住ハ同秀光ハ至徳三年丙寅十二月上京ーて紀伊守従五位下ハ叙せらるゝ嘉慶二年戊辰

三月足利義滿將軍の命ゝ背きて會津田島を沒收せらるゝ、下野國都賀郡岩船山の麓白岩郷より來りて潛居る時より小山泰朝同根の因を以て領地を分ち同郡皆川庄を附與る是より於て秀光杤木郷より城を築く住る時、應永元甲戌年なり、其後皆川の城を再興して本城とる、

同秀宗ハ永享十年戊午八月朔日、相州鎌倉ゝ立越、足利家の為より生害る、家臣山藤喜弥太、荒川小弥太、關口保、柏倉齋宮、宇島登城所左馬助等、共ゝ討死る其男氏秀ゝ時より五十餘郷を領る、皆川家中興の元祖なり、其男宗成始ゝ皆川宮内少輔と号る、大永三年癸未十月三日、宇都宮忠綱と同郡川原田より於て合戰して討死る、今ゝ其所を合戰場と云、其男成勝山城守と号る、其男俊宗同山城守と号る、天正元年癸酉九月十日、相模乃北条氏政下総國關宿ゝ發向して、築田中務大輔政豊を責る刻、同根の因より依て、結城晴朝等と共ゝ加勢して田井より於て討死る、家臣阿部城兵衛太郎、川俣兵衛五郎、氏家伊賀、同源之丞、須永刑部、左衛門、横倉伊豆、厚木、米倉田宮、田中、松本、矢田中、川野口、大和田、大貫、高野、立川、玉田、大森、岡本、平手、柏倉、風間、森岡、横地、大佛等廿七騎と共ゝ討死る、同廣照宮内と云、山城守より任る宇都宮の旗下より屬して、壬生上総介義雄の妹を娶る、天正

十二年甲午七月十六日、北条氏直同郡藤岡ゝ出張、先陣松田尾張守憲秀、秩父安房守氏邦、大石近江守、同四郎左衛門、中條出羽守、間宮備前守、浅倉能登守、行方彈正、大谷帶刀等、一万八千餘騎、山田口より太平山より攻来り、社頭寺院殘らず燒拂ふ（小田原實記ハ天正十二年四月とあり皆川帝鑑ハ十二年七月十六日と記す）、皆川方より、廣照の舍弟伊豆守俊勝、壬生上総介義雄、牛久大和守吉隆、佐山信濃守政道、河津石見守祐共、關口但馬守盛行を始め、幸島若狭、杉江河内、柏倉縫殿助、中島藏人、堤崎民部、落合雅樂助、毛塚大膳、川俣隼人、須永監物、齋藤右京、植竹對馬、寺内玄蕃、日向野主計、稲葉六郎左衛門、野口新右衛門、大槁新三郎、増山九右衛門、野原千五郎、石川又六郎等、其勢八千餘騎、草倉山より出陣して防戰る、七月十六日より、同九月十五日まで、六十日の合戰より、小田原勢の討死士三十一人、雜兵八十人許、皆川勢の討死士十六人、雜兵四十人許、終より和睦して、同十六日引退く云ふ（小田原實記ハ二百日の長陣とあり）、

天正十六年戊子十二月、佐野左衛門佐氏忠と（北条氏綱の二男）、同郡諏訪山にて合戰る、同じく佐野の旗下、粟野の城代平野大膳、大槁左近等を討亡る云ふ、其後終より小田原の旗下に屬して、時より天正十八年、豊臣關白小田原征伐して發向あるべき廣照ハ八百餘騎を引率して、壬生上総介義雄、成田下総守氏長

或本ニ竹鼻ヲ竹浦ニ作ルハ非也

寺ゝもれ北条陸奥守氏照の手小屬〳〵其勢一万五千餘騎おく竹鼻口
ゝ堅めゝり然るに三月廿九日山中の城落〳〵明ぬ四月朔日先陣宮木野ゝ攻
入と聞そ〳〵夜廣照いとゝゝ不忍ひ出く
徳川家の御陣所〳〵降参ゝ是ゝ依て本領三万石案堵せヤ然るに皆川の
城ハ上杉中納言浅野彈正少弼松平修理大夫の三将三方ゝり取圍〳〵四月五
日ゝり同しく八日ゝで攻ゝ故城代關昌馬河津石見河田因幡植竹對馬
同三河川島伊豆渡邊丹後をゝめ鈴木帶刀中島藏人大關助四郎浦野
新三郎稲葉六郎左衛門鯉沼助三郎大島内匠小倉大膳大和田小四郎大
木大學河邊弥七郎長石掃部丸山弥四郎長江右近土肥九郎三郎長
野主膳其外一人も残らゝ討死ゝ室家并小子息隆庸をゝ山田の白石
三河守義正方〳〵忍ひ出ゝ助ゝ〳〵ゝり應永元年ゝり天正十八年ゝで百九
十八年ゝそ皆川ハ落城ゝ及ひゝり云く
萬世家譜ゝ皆川山城守廣照天正十八年御旗本ゝ屬ゝ慶長六年
上総介忠輝卿の御後見仰付られ四品ゝ叙ゝ本知の外ゝ信州飯山四万石を
加恩ゝ同十四年忠輝卿の事ゝ付て　御勘氣を蒙ゝ元和九年
公ゝ徳公ゝ名出られ常陸國府中一万石拜領ゝ云〳〵ゝり後故あ〳〵て半知
ゝれて今ハ五千石なり〳〵越前の家士〳〵皆川多左衛門と云人あ〳〵て
皆川伊豆守俊勝が後孫ハ元和七年　東福門院御入内の供奉を命せら
れて京都ゝ住ゝ近世聞そ〳〵皆川淇園名愿字伯恭通称文藏則其末孫なりと云
系譜ゝ云皆川山城守成勝の時永禄六年亡父宮内少輔宗成並ゝ討死せる
家臣の菩提の為ゝ領内川連村の阿弥陀堂ゝおく〳〵常念佛を供養せ
むと云〳〵今の杤木駅の定願寺ゝれなり則常念佛の料〳〵て九反九畝
二歩今〳〵寄附の田地あ〳〵當寺本尊弥陀如来ハ傳教大師の作なり
云天台宗の古道場なり

藥師寺城

河内郡藥師寺村ゝあ〳〵小山左衛門尉朝村〳〵めて築く寛喜年中
なり〳〵

藥師寺系圖

小山下野守朝政嫡孫

○朝村　藥師寺左衛門尉大夫判官

政氏　新左衛門尉

政村　阿波守左衛門尉

政盛　阿波守左衛門尉

貞光　次郎左衛門尉

公義　次郎左衛門尉入道元可歌人

公光　弥次郎

義春　勘解由左衛門尉觀應二年辛卯十月於駿州薩埵山討死

義夏　從五位下阿波守修理大進

助義　山城守正六位上掃部助

助光　掃部助

貞義　次郎左衛門尉

貞俊　阿波守

貞政　阿波守

貞氏　次郎左衛門

貞勝　阿波守

貞村　阿波守

勝朝　伊賀守實貞勝二男

東鑑ゴ藥師寺左衛門尉朝村同新左衛門尉政氏等往々ゝそゝり、太平記ゴ藥師寺次郎左衛門尉公義同勘解由左衛門尉義春同

修理進義夏、同掃部助助義等往々ありて、次郎左衛門尉義
高武藏守師直が昵近として覲應二年二月十七日、將軍と高師直と、直義入
道小責をやなされて攝州松岡の城に籠りける時、公義は師直小自害を勸
めりけるを、元來比興未練の師直なれば降參出家の義小落着しける故に公
義は彼を見限りて斯る人と死を共にしてなに小の高名かはあらん、浮世とい小
いん小はあらじと、

ゆくすゑはしらぬ人の数なれば
くるるまくまに自ら髻を切て墨の衣に身をやつし高野山に登りて三間の
茅屋千株の松風こそ人間外の天地なりと心もすまして身もやすく覺え
ぬべし、

高野山浮世の夢もさめわびぬ
その曉ぞ月ぞ冴ける

さて暫くは閑居幽隱の人とぞ成りぬと云へども、尊氏將軍の御方にて、同年十二
月本國下野に立歸り、宇都宮公綱を勸めて、尊氏將軍の御方にて上州
に打て出、桃井播磨守直常が軍勢を討破りて、それより駿州薩埵山小馳
向ひ、將軍の後詰にして、直義入道の大軍を追討しける、されば歌の如くあ
らで再び弓矢を取てなりて、此公義入道、元可小武勇小ありて歌道

小も達して、文武兼備のものにて、無道の師直が昵近なるに依
て、英名のたちにけるとぞ、元可法師歌集一卷あり、
もしくは中小上に擧げる高野山の歌勝れば本居宣長の古今
選小も載せり、此歌新續古今集の釋教の部に入りて高野山に住る
頃、奥の院小詣で夜もすがら誦ずして思ひつづけるとあり、
藥師寺の嫡流阿波守義夏が後孫小宇都宮家の被官と成て代々次郎左
衛門と号し、阿波守に受領して、天文天正の頃阿波守貞村、同伊
賀守勝朝等、所々の合戰小武功あり、宇都宮興廢記、蟠龍軍記等
小見えたりて宇都宮家慶長三年没收の後、浪人と成て其玄孫次郎
左衛門、毋方の苗字を名乘、醫酉を業として橋隆庵と号し、御奥醫酉師小
名出されしより、依て其弟藥師寺次郎左衛門と号し、共に御直參小名
出されて、連綿として館林盛衰記に佐貫照安の旗下に藥師寺九左衛門公通
とあり、其行末は詳ならず、嘉吉の乱に藥師寺和泉守公高と聞えし人、結城
小籠城して討死をせり、結城戰記、東國擾乱記等小見へたり、その末葉は
奥州仙臺小殘りて、是も醫を業とせり、これらは公義の後孫なるべ

足利城

足利郡足利驛の西北の山上にあり、足利大夫成行これを築く、天喜年間なり、

藤姓足利系圖

鎮守府將軍秀郷六代

○兼行 從五位下淵名大夫上野國淵名領主

- 成行 從五位下足利大夫
  - 師任 沢朕四郎與余吾將軍平惟茂合戰而討死
  - 行房 佐貫太郎上野國住人佐貫治部大輔光景家督改名光継
  - 成綱 足利太郎早世
  - 家綱 足利八郎大夫左馬助又号安藝大夫實成行二男
    - 俊綱 從五位下足利太郎治承五年為家臣桐生六郎生害
    - 成俊 佐野庄司次郎元暦元甲辰十二月廿五日卒法名七室義觀号東明寺殿
    - 郷綱 深栖三郎
    - 成次 利根四郎
    - 隆綱 山上五郎

澤朕四郎と余吾將軍と戰ふ、今昔物語に見えたり、さて惟茂將軍の墳墓八今越後國蒲原郡小川通の山中にあり、高く尋ぬべし、

成實　園田六郎

有綱　矢子七郎　佐野阿曽治木村等之祖別在系

忠綱　中務丞田原又太郎治承四年合戦宇治川先陣于時年十七破三位入道頼政之軍陣而奉射高倉宮

忠廣　孫太郎移往伊勢國三重郡赤堀而号赤堀太郎承久三年合戦属京方討死後孫赤堀左衛門尉忠季永禄年中為北畠家断絶

東鑑小、従五位下藤原俊綱字足利太郎者武藏守秀郷朝臣後亂鎮守府將軍兼阿波守兼光六代孫散位家綱男也領掌數千町為郡内棟梁也而去仁安年中依或女性之凶害得替下野國足利庄領主職仍平家小松内府賜此所新田冠者義重之間俊綱令上洛愁申之時被返畢自尓以降為酬其恩近年令属平家之上嫡子又太郎忠綱同意三郎先生義廣依此等事不参武衛御方云々俊綱專一者桐生六郎為顯隱忠斬主人而籠深山云々足利又太郎忠綱本自背源家亦小山與足利雖有流好加平氏渡宇治川敗入道三品頼政卿之軍陣奉射宮也云々経山陰道起西海方云々是末代無雙勇士也三事超人也所謂其力對百人也其聲響十里也三其歯一寸也云々

平家物語ニ下野國ノ住人足利又太郎忠綱生年十七歳ニテ有ケルガ進ミ出テ申ケルハ云々中略此川ノ深サ利根川ニ幾程ノ劣リ勝リハヨモアラジ續ケヤ殿原トテ真先ニコソ打入タレ續ク人々大胡太室深須山上那波太郎佐貫四郎大夫廣綱小野寺禪師太郎部屋子七郎郎等ニハ宇夫方次郎切生六郎田中宗田ヲ始トシテ三百餘騎ノ續キケル云々

源平盛衰記ニも右の如くあり云々大槩かくの如くにて忠綱ハ平家滅亡の後ハ足利の奥彦淵の山中峡沢と云所ニ潜居せしが終ニ生害ス云々其靈を忠綱明神と祝ひ今ハ上の神社部ニも載せ侍り當城ハ其後足利陸奥守源義康朝臣の居城とせり其子孫代々繁昌して征夷大將軍源尊氏卿ニ至ル

足利式部大輔源義國之像

足利鍄阿寺安置

足利將軍
源尊氏卿之像

風雅集　源尊氏

山風ハ三嶽の松よりそよぐ
ゆふ月のこゑそ谷ふかきなる

同寺安置

源姓足利系圖

鎮守府將軍源義家三男

○義國　正五位下式部大輔足利三郎母中宮亮藤原有綱女久壽二年乙亥六月廿六日卒新田足利兩家之祖久安六年庚午下向下野國足利云々

本朝武家評林ハ天喜年中源義家朝臣奥州征罰の刻當國ヨリ發向し足利七郎有綱ヲ召ゐ彼娘ヲ配し義國をまうけしと記し侍ハ甚しき誤なり此系圖ハ中宮亮藤原有綱の娘なりしを足利七郎有綱ハ義家朝臣より五代の後孫頼朝卿ヨリ隨從せし事東鑑ハ云ふに義國よりも遥ヨリ後の人なり時代をも考合せば有綱と思ひ混ひく附會せるものなり

義重　從五位下新田大炊助母上野介敦基女法名上西或淨西号大光院殿方山西公建仁二年壬戌正月十四日卒新田世良田山名里見等之祖

義康　從四位下足利陸奥守藏人判官代内昇殿母信濃守有房女保元二年丁丑五月廿九日卒三十一

義清　矢田判官從末曽義仲於備中水島討死仁木細川大崎等之祖

義房　足利判官從源三位頼政於宇治川討死

義兼　從四位下足利上總介母藤田大宮司季範女實鎮西八郎為朝男正治元年己未三月八日卒号鑁阿寺殿

義氏　正四位下左馬頭陸奥守治部大輔母北条遠江守平時政女建長六年甲寅十月廿一日卒法名正義号法樂寺殿年六十六歌人

義頼　桃井次郎桃井之祖

尊卑分脉ヨリ足利義氏建暦和田合戰之時懸義秀被引切鎧袖乘逸馬超堀全身命云々

續拾遺冬々　源義氏

長氏　足利上総介吉良今川等之祖

泰氏　正五位下宮内大輔左馬頭母北条武蔵守平泰時女文永七年庚午五月十日卒法名證阿号智光寺殿

家氏　従五位下尾張守大夫判官又太郎斯波之祖

頼氏　従五位下治部大輔初名利氏母北条修理亮平時氏女法名義仁号吉祥寺殿

義顯　三郎渋川之祖

頼茂　四郎石堂佗々木等之祖

公深　律師一色之祖

家時　従五位下伊豫守式部大輔母上杉左衛門尉藤原重房女法名義忠号報恩寺殿

貞氏　贈従二位讃岐守母北条左近大夫平時茂女元弘元年辛未九月吾卒法名義觀号浄妙寺殿

尊氏　正二位權大納言征夷大將軍贈従一位大政大臣母上杉修理亮藤原頼重女従二位藤原清子延文三年戊戌四月廿九日薨五十四法名仁山妙義大相國号等持院殿

直義　従三位左兵衛督左馬頭母同上觀應三年壬辰二月廿六日依病薨法名故山恵源号大休寺殿

義詮　正二位權大納言征夷大將軍贈従一位左大臣母赤橋武蔵守平久時女従二位平登子貞治六年癸卯十二月七日薨三十八法名瑞山道惟号寶篋院殿

基氏　従三位左兵衛督左馬頭母同上貞治六年癸卯四月廿九日薨廿八法名玉岩道所号瑞泉寺殿叔父直義為猶子後孫代々住鎌倉而称関東公方喜連川生實宮原寺之祖

東鑑ニ、治承四年九月廿日己卯、新田大炊助源義重入道（法名上西）引籠上野國寺尾城、聚軍兵云々、

同五年足利三郎義兼娶北条殿息女、云々、建仁年中ニ足利三郎義氏、嘉禎年中ニ足利五郎長氏、同次郎兼氏、其後足利太郎家氏大夫判官家氏、云々、あり、同三郎利氏後改名頼氏等往々ありあり、

建長六年十二月廿一日庚午霽入道正四位下行左馬頭源朝臣義氏（法名正義）卒、

と、あり、

今川記ニ曰、時源氏ノ正統ヲ申奉ルニ、義國ノ御子一男義重新田ノ初也、次男義康足利殿是[redacted]

先祖義康ノ御子一男矢田判官義清、木曽殿ト同時ニ責上リ、備中國水島合戰ニ討死也、二男足利判官義房、頼政ニ一味シ宇治川合戰ニ討死シ給フ、三男上総冠義兼ゾ、義康ノ家督ヲハ、御相續ナリ、

義兼ハ、實ハ八郎為朝ノ子也、義康ノヒソカニ養ヒ給ヒケルト也、御長九尺計ニテ力人ニ勝レ給ヒ、義兼此事知レメサズヤ、頼朝ハヒソカニ知シ名給ヒケルト也、頼朝ニキンシ、給ヒ人ガラモ穏便ニマシ〳〵ケレバ、時政カ聟ニナシ被申ケルト也、然ハ頼朝ト義兼モ從弟ニテ又相聟ナリ、去程ニ新田殿ヨリ足利殿ノ御末繁昌シ、代々北条家ト縁ヲ結ヒ給ヒ也、

義兼ノ實父為朝ハ、高名ノ合戰二十度、人ヲ殺事數不知、然共一人トシテ非義ノ敵ヲ不討、古今無雙ノ強弓ニテアレドモ、漁獵ノ遊ヲ不好、慈悲ヲ先トシテ父母ニ孝アリ、礼義ヲ專トシ一心ニ地藏ヲ奉念、サル故ニヤ現在ニテ荒神ノヤウニ恐レシカドモ、子孫ハ、殘リテ天下ノ武將トシテ[redacted]ニ殘リ給フ、不思議ノ御事也、

義兼ノ御子左馬頭義氏御法名正義北条義時ノ聟也、其御子一男足利五郎長氏上総冠、二男義継、三男泰氏宮内大輔平石殿ト申ス、此御母義時ノ息女ノ腹ニテ左馬入道殿ノ家督ヲ相續シテ惣領ニ立給フ、泰氏又最明寺殿ノ妹聟ニテ、式部大夫頼氏ヲ生給フ、頼氏ノ御子家時伊豫守、其御子貞氏讃岐守殿、其御子尊氏將軍等持院様是ナリ、其御弟直義大休寺殿今ノ鎌倉ノ初ナリ、尊氏公ハ北条相摸守久時ノ聟ナリ、寶篋院ノ御母是也、加様ニ代々先代ノ御縁邉ニテ[redacted]ノ御威勢源家ノ棟梁ニテマシ〳〵ケルトカヤト記シ〳〵あり、

難太平記ニハ、足利義兼ハ為朝島ニテマウケタル子ニテ、密ニ足利義清ヤシナヒテ子トス、狂人ト偽リテ頼朝ニ對面セズ、一生安坐ストあれど、義清の

子とはいふ、今川記と少し異なり、難太平記も今川伊豫入道了俊の筆記なれば正しき說なるべし、按ずるに義清義房とも討死せし故よ、義兼を以て義康の家督となせしなるべし、

太平記に足利尊氏將軍は初治部大輔高氏とあり、元弘の始め後醍醐天皇の御方に從て北条が一族を攻亡し、後勳功を募て新田義貞朝臣と確執に及び遂に天皇に背きて朝敵と成しかば、持明院上皇の院宣を乞うけて、九州の大軍を駈催して、新田楠北畠等の官軍をことごとく討亡し、後伏見天皇第四の皇子豐仁親王をおして帝位に即け、光明院と称し奉て、其身は正二位權大納言に任し、征夷大將軍と成て、天下を一統し、子孫十三代政務を執まつり、

同直義入道惠源禪門は三条殿と称し、觀應三年壬辰二月廿六日俄に死去し、黄疸と云病にて逝去はと外には披露して、實は怨敵の為に鴆毒を呑て失せしと云、此人隨分政道をも心掛け仁義をも辨へしかども、自滅をる事は、いかなる罪の報ぞと案じ思ひ、鎌倉にて此直義の勸めに依て高氏一紙の告文を偽て、故に其罰にて兄弟の中も不和に成て、大塔宮を殺し奉て、將軍宮を毒害せし、其御罰なるべし、

云々と記せり、

僧義堂の空華文集に、故征夷大將軍源公尊氏執政の初曆應の間、日本六十六州に一寺づゝ皆安國寺と名づく、此寺も其一なりと、下総國天平山安國寺化鐘の疏に、梅松論下の巻には三条殿は六十六ヶ國に寺を一宇づゝ建立して各安國寺と名づくとあり、三条殿は直義入道なりまつる、僧横川の京華集七の巻に、山中右馬允橘守俊と云者、梵漢両字に寫所の地藏を出して讃をなす、所謂勝軍是なり、昔等持院大將軍尊氏に支あり、我三尺の劍を提て天下を馬上に定む、殺せる所多し、と云ふ、十万に過ぎし工に命して願望を造るもの千万躰、是を京の等持院の大殿に安置し、勝軍を以て安置し、吁千古の亀鑑なり、為ることあるものは此の如しと称美せり、是らの事は知る人も稀なるべし、尊氏將軍は天津日嗣の御正統を廢せし朝敵なれども、世の人もなべてよくむかしの九牛が一毛なる善根をも摘出して記せり、

佐野城

安蘓郡佐野庄杤本村の唐沢山の上に住して鎮守府将軍秀郷朝臣の築く所と云同鎮守府将軍頼行まで六代すして中絶せしを其後孫佐野庄司成俊再興して居住せり佐野太郎基綱相續して子孫代々是に住せり

佐野系圖

鎮守府将軍秀郷九代

○家綱　足利散位左馬助又号安蘓八郎大夫

有綱　足利七郎領都賀郡部屋郷号部屋子七郎

基綱　佐野太郎改名忠家一本作從五位下佐渡守伯父佐野庄司成俊為聟依住空沢山城号安藏寺

為綱　次郎

雅綱　三郎

為景　次郎入道淨阿

靖綱　三郎入道全阿

廣綱　阿曽沼民部丞四郎別在系

信綱　木村五郎

政綱　次郎左衛門尉　日光山中禪寺鐘銘に建保四年丙子三月廿三日願主左衛門尉藤原政綱とあり

女子　小野寺中務丞通綱室

茂綱　角折七郎

國綱　吉水太郎佐野庄吉水郷住居仍号吉水母成俊女

實綱　左衛門尉寶治元年丁未六月五日於鎌倉法華堂合戦討死

吉水村興聖寺に國綱の母妙永尼の建立に尼公建保四丙子六月十八日寂と同寺記録にあり

成綱　小太郎興父實綱共討死号松中院

景綱　上佐野次郎

時綱　関口三郎上野國関口住人

宗綱　戸奈良五郎與父兄共討死号超願寺

行綱　鹿沼六郎右衛門尉

親綱　閑馬七郎

清綱　八郎依父兄討死家督相續

勝綱　鹿沼權三郎入道敎阿鹿沼神山等之祖
日光山新宮の廣前小銅燈篭一基こてり其銘
正應五年壬辰三月日願主鹿沼權三郎入道敎阿
と彫付こり

東鑑に治承五年辛丑閏二月廿三日、志田先生三郎義廣謀反の刺、足利七郎有綱嫡男佐野太郎基綱四男阿曽沼四郎廣綱五男木村五郎信綱及太田小權頭行朝等、合陣于小手差原、小堤処合戦、此外八田武者所知家宇都宮所信房、小栗十郎重成、鎌田七郎為成、湊河庄司太郎景澄等加り、山朝政蒲冠者範頼馳来也云々、

同六年の条に佐野太郎忠家とあるも、佐野太郎基綱が事なり、

承久三年辛巳六月後鳥羽上皇隠謀の刺、佐野太郎、同次郎入道、同三郎入道等攻登りて、錦織判官を生虜すこと、

北条九代記に、佐野小次郎、同七郎太郎、同八郎と記こり、

寶治元年丁未六月五日三浦若狭前司泰村謀反露顯の刺、佐野左衛門尉、同子息太郎、同小五郎佐貫次郎兵衛尉等、一味同心こるに依く、法華堂に於て合戦生害云々こと、

建長三年正月廿日、出仕の中に佐野八郎清綱こそこり、

太平記に元弘の始後醍醐天皇隠謀を企て給ふ時、東國より攻登る小山結城長沼寒河宇都宮氏家那須等の中に佐野安房弥太郎木村次郎左衛門尉等こそこり、其後觀應二年十二月駿州薩埵山の合戦に、宇都宮公綱後詰こて發向こる刺佐野佐貫の一族等馳加こる、

直綱　左衛門尉小太郎号法光院

資綱　従五位下安房守弥太郎号新福院

師綱　従五位下越前守弥太郎

重綱　従五位下左馬助小太郎法名俊海延徳元己酉七月廿五日卒密藏院功山忠正

- 季綱　左近將監小太郎法号　盛綱　越前守小太郎太永七壬亥二月五日卒空法名本光寺明鑑道昌
  - 重長　岩崎次郎左馬助大永二壬午八月十五日卒　法名見照院一桂明鑑
- 秀綱　越前守小太郎天文十五年丙午八月十三日卒七十五法名桜根院一器道玄
- 是綱　小見次郎左衛門尉
- 増綱　船越六郎
- 親綱　戸室七郎
- 重綱　田沼九郎
- 泰綱　修理亮小太郎永禄三年庚申正月廿九日卒七十三法名東根院一溪唯善
- 行綱　栄宮六郎
- 利綱　久賀七郎兵衛一本作光綱元亀三年壬申五月三日與士生上総久義雄合戦而討死久賀南摩等之祖
- 高綱　中江川九郎左衛門
- 豊綱　長人佐小太郎永禄二年己未九月廿五日卒五十六法名興聖寺大通長賢
  - 女子　関口佐渡守吉久室号富子
  - 女子　小曽戸摂津守行家室号由良子

昌綱　越前守周防守小太郎天正二年甲戌四月八日卒六十六法名佛生院天山道一

女子　茂呂左馬助利資室号倉子

宗綱　修理亮小太郎天正十年癸未正月元日為長尾但馬守顕長於同郡彦間數葉那坂討死于時廿八同二月五日自足利送迄首級同日葬杤本郷大明山本光寺法名水晶院璜山長渭

房綱　小次郎出家号天德寺了伯天正三年乙亥二月剃髪同八月上京仕于豊臣家同十八年歸國還俗号佐野修理大夫政綱文禄二年癸巳三月以富田左近将監知信二男信種為養子令佐野家督同三月如元剃髪再号天德寺了伯慶長二年丁酉二月隱居同郡赤見郷同三年戊戌三月移住都賀郡仙波郷阿土山同六年辛丑七月二日寂四十四葬山形郷報恩寺号天德寺萬久了伯

重綱　又次郎上野國桐生大炊助直綱家督

光綱　吉五郎出家号幽頼寺了性天正十七年己丑三月八日於越後國高田生害于時三十歲

虎松丸　上杉輝虎入道謙信猶子天正七年己卯二月廿四日病死十四歲

信吉　修理大夫従五位下實富田左近将監源知信二男初名松四郎信種文禄二年癸巳二月廿五日佐野家督于時十八歲慶長元年丙申正月従豊臣秀吉公賜諱一字改信吉同七年壬寅十二月奉　旨辛沢山城移天明郷春日岡同十九年甲寅七月廿六日有故改易信州松本小笠原家御預寛永十一年甲戌六月可召出之旨蒙　台命出府之刻於道中煩辛中風同七月十五日卒去于時五十九歲法名号正蓮院功山源忠

女子　信吉室元和六庚申二月廿四日逝法名号明窓貞珠大姉

中興武家勲功記ニ、富田左近将監、清和源氏、伊勢國阿濃津城主五万石長男信濃守信高、伊豫國宇和島城主ト成ル十万石後故有ル改易七千石、二男信吉佐野家督九万石後加増有テ十万石ヲ領ス慶長十九年大久保石見守長安ガ隱謀露顯ノ刻縁坐ニ依テ

改易とあり、

- 久綱　吉兵衛尉初吉之允延寶七年己未六月廿五日卒法名義光院雲峯性忠
  - 勝綱　助右衛門尉初喜兵衛ゟ名喜三郎
- 勝由　信濃守從五位下初彦九郎知行二千石
  - 茂祇　三左衛門初助十郎知行三百石
- 正行　修理大夫從五位下初吉之允知行三千五百石

宗長ゟ東路裏ゟ、永正六年文月云、中暑佐野の館ゟ五日許ありく會たり、ゟ音九連歌器量なるあり、宿のたゝ山上筑前守興行、

其夜野ゟ一ての朝なるべし、佐野越後守見参して、そゝくさ云、事どもなり、此所ゟ佐野田の稲あり萬葉ゟもあり、船橋ゟ此あるべし、云々、さて越後守とあり、越前守盛綱の事なるべし、山上筑前守とあり、佐野の一族山上五郎隆綱ゟ後孫なり、天正の頃ゟ山上内膳輝秀と聞えしも此筑前守の孫ゟ、内膳ゟ剃髪して道笑と号し、天德寺ゟ伯ゟ随從せる忠臣なり、

東國擾乱記ゟ、天正十年佐野修理亮宗綱ハ同國足利の長尾但馬守顯長ゟ為ゟ同郡彦間の城を奪い取らる、云、同十一年正月元日宗綱彦間ゟ馳向て討死ゟ云、是ゟ依て佐野家斷絶ゟ及ぶべき所を、老臣大貫越中武重ゟ計らひて相摸の北条氏政の舎弟左衛門佐氏忠をむかへて佐野の家名成相續ゟ云、

同十二年甲申七月北条氏直太平山ゟ攻寄て、皆川山城守廣照と六十日の間對陣ゟ佐野左衛門佐氏忠其隙を窺て、皆川の旗下齋藤左衛門秀隆ゟ守て、粟野の城を責取て、平野大膳、岩出右京、松崎雅樂助、大槁左近、横尾兵庫、神山新左衛門等ゟ守らせたる云、

同十六年戊子十二月皆川より齋藤左衛門秀隆を大將として杉江
河内、弦巻伊勢、玉田圖書、北岡藏人、河田因幡、水谷玄蕃、金子長門、箱
島左近、鯉沼助三郎、稲葉六郎左衛門、長江右近等二千餘騎にて攻来る、
佐野方にては寺内信濃、生沢伊豆を大將として清水右京、蔦生縫殿、
膝附攝津、田中源十郎、羽生彦十郎、神山修理、須賀大和、吉沢四郎右衛門、
吾槁監物、山井兵庫、片柳十大夫、鶴見五郎兵衛、菜池、猪熊、三木、玉井、
内田、大野、関塚、黒川等馳合て防戦ひけるが、平野大膳、大槁左近、松崎
雅樂助、清水右京、葛生縫殿、古槁、山井、膝付をはじめ三十七人討死し、
皆川方も齋藤左衛門、植竹左馬助、高田兵部等十三人討死し、両陣と
も雑兵の討死し、計てもすくなからざりし、平野大膳が娘一人有りけり、今年
十七歳なりけるが、其うちの人より勝れて、嚴しうありしが、平野も深くこれを
愛し、いつしか大槁左近と逢初て、二世の契をぞ結びける、今度父
大膳并ふた左近等、粟野より於て討死したりと聞て、やがて彼所に至り、
日をくりつるかなしさ、
と一首の歌を詠じ、左近が討死したる所にて自害して、同じ枕に
ぞ、

同十八年庚寅三月、豊臣殿下北條征伐として相州小田原に發向の刻、佐
野宗綱の舍弟天德寺に伯都に在りしが、東國の案内者に名具せら
れ、佐野の城へ遣はされ、老臣岩崎吉十郎久長、阿曽沼助大夫方重、
長島玄蕃行國、戸室伊賀行宗等、天德寺に歸伏ひけるを、大貫越中
一人氏忠に從て是を拒まれしが、岩崎、阿曽沼等大貫を討亡し、天德寺
を主君と仰ぎたりと云へり、小田原没落の後、殿下の御家人富田左近將監知
信の二男信種を養子として佐野修理大夫と名のらせ、家督を譲り、天
德寺に伯、同郡赤見郷に隱居したりと云へり、佐野軍記には、大貫
越中謀反を企て、宗綱の奥方并に息女を追出して、氏忠を主人とせりとあり、
新田老談記、館林盛衰記等抄の、異同あり考合すべし、
北條分限帳に、御新造知行分之内下野國佐野領に而被遣千貫文とあり、
東遊行嚢抄巻廿に、佐野城自大卧一里舊壘、自是西杤本村の上にあり、
近世マデ佐野修理大夫の居城なり、佐野分限其頃八万石なり、有故御改
易、其時毀之云々と記したり、
夏目氏の記に、関東の七箇城と云事を載せたり、下野唐沢山城、
同宇都宮城、上野新田山城、同厩槁城、武州川越城、同忍城、常陸太田

城と記しこれり、
猿樂の謠曲に鉢木と云物に佐野源左衛門常世と云者最明寺時
頼入道殿に雪の夜をあるじもせず幸ひにあひし事を書し
是に名をまうけ作りしものなるべし
なきにあらねど此謠曲より始まりて浄瑠璃物語など彼是作り
出しこれ多くあるべしと思ふ人も多うめれどいまだ北條九
代記に最明寺入道殿津國の難波の老母が家にやどりて其由緒を聞
て後に彼難波の家を取立られ事見えたりとて佐野の事とし
て作りしものなりこれつぎに見のこ

阿曽沼城

安藝郡佐野庄浅沼村にあり阿曽沼四郎廣綱ここに築く壽永年
中なるべし

阿曽沼系圖

足利七郎有綱四男
○廣綱 阿曽沼民部丞四郎
朝綱 太郎
親綱 次郎實廣綱二男
光綱 民部丞次郎
次綱 四郎
公綱 四郎
郷綱 四郎太郎
氏綱 弥太郎
貞綱 弥太夫
晴綱 四郎大夫

方重 助大夫

廣綱、親綱、光綱、郷綱、氏綱、貞綱等武家大系圖、十四卷系圖等ハ、こゝ、れど異同あり、

東鑑ニ阿曽沼四郎廣綱ト、浅沼四郎廣綱トモ書キ、元来、安積沼ヲ、浅沼ト呼ビ、ナリ舎兄佐野太郎基綱トモ、小壽永二年、武藏の小手差原合戰ニ出陣ヲ、ヲ、建暦年中阿曽沼次郎親綱ヲ、嘉禎年中阿曽沼小次郎光綱、民部光綱トモ、次ヲ同四郎次綱ト、

北條九代記ニ承久三年都ニ攻登ル中ニ、阿曽沼小次郎近綱トイフモ、親綱ナリ、

佐野軍記ニ、天正年中阿曽沼助大夫方重、阿曽沼民部丞廣綱十三代の嫡孫ナリト記シ、

大系圖ニ高階惟長ニ足利庄司依義妻中ニ遠江右大將奥州信夫庄給ヒシ、

東國擾乱記ニ、阿曽沼助大夫ハ、佐野家の一門家老ニテ修理亮宗綱の補佐ナリ、昌綱侍女ニ通ジテ懐妊シ、ヲヲヲ助大夫密ニ我子ニ、ナシテ養育ス、女子あり、ヲヲヲしバ後ニ足利郡佐川田の住人佐川田喜六昌俊ニ嫁ス、昌俊ハ方重ガ母方の甥ニテ其先ハ高階惟長の末葉ナリ、代々佐野ニ役ヒ、ヲヲ、後永井右近大夫直勝ヨリ勤仕ス、其後致仕シテ遁世シ、山城國薪里ニ庵を結ビ、黙々庵と号ス、世ニ聞エ、る歌人ニテ、寛永廿年癸未八月三日没六十五歳と聞エ、リ、寛文の大后宮の撰ニ給ヒ集外三十六歌仙の一人ニテ、

ヲヲヲ花ヲ、ヲの名ハ、ヲヲヲ、ヲヲヲ、家のヲヲヲ、

此歌一代の秀逸ニテ世の人乃知ル所ナリ、昌俊ヲ傳ハ、こゝ、ニ、ヲヲ事ナリ、

小野寺城

都賀郡小野寺村ニ、あり、小野寺禅師入道義寛ヲ、ヲ、築ク、保元元年丙子ナリ、

小野寺系圖

鎮守府將軍秀郷四代

○文行　從五位下左衛門佐故後孫号佐藤母利仁將軍女

公光　從五位下相摸守母右兵衛佐定文女

公清　佐藤左衛門尉母同姓阿波守兼光女佐藤近藤武藤尾藤首藤山内等之祖

経範　右馬助波多野河村松田廣沢等之祖

助清　主馬首故後孫号首藤三河國住人

助通　首藤權頭從源頼義而七騎之一人武名高

親清　首藤太左衛門尉

義通　山内首藤刑部丞相摸國住人

通清　鎌田權頭

正清　鎌田兵衛尉平治二年庚辰正月廿日從源義朝至尾張國野間宇津美為舅長田忠宗主從討死

定義　瀧口右馬允

俊通　瀧口刑部丞平治元己卯十二月廿七日合戦討死

俊綱　瀧口四郎與父共討死山内首藤瀧口五味等之祖

義寛　小野寺禪師入道從六条判官為義數度有武功故賜諱一字始被補下野國小野寺莊領主職建仁三年癸亥四月八日卒法名号夜叉院七寶義寛

通綱　小野寺中務丞号禪師太郎治承四年庚子五月廿三日高倉宮隱謀之時與足利又太郎忠綱宇治川先陣其後屬源頼朝承久三年辛巳五月後鳥羽上皇隱謀之時依二位尼公之命從北条泰時之手同六月十四日於宇治川討死于時六十八歳法名号住林寺弘國通綱

秀綱　左衛門尉承久三年與兄通綱上京從足利義氏之手有武功云〻

秀通　太郎伯父通綱為猶子

通業　小次郎左衛門尉母足利七郎有綱女

通時　四郎左衛門尉

行通　新左衛門尉

泰通　左衛門尉

通義　中務丞

東鑑小治承五年閏二月小野寺太郎通綱武藏國小手差原合戰小山政朝の陣より馳加へ志田先生義廣と戰ふ云々承久三年の条に、蒲冠者範頼に属して平家を攻る云々元暦元年の条に、小野寺入道丞討取内一人手討とわやて討死の人數の中小野寺中務丞と云々、

平家物語に小野寺禪師太郎忠綱と共に宇治川を渡りて、源三位入道の陣を破る云々源平盛衰記に同じく記す、

また東鑑に建仁年中小野寺太郎秀通あり、嘉禎年中小野寺四郎左衛門尉通時、同新左衛門尉行通あり、また小野寺次郎左衛門尉通業寺も云々、さて後孫應永の頃より、出羽國仙北城に移住して數代彼所に在しが、天正の頃小野寺下野守綱元と聞え人、豊臣家に属して三万石を領し、関ヶ原合戰の刻直江山城が攻めに依て、石田三成に與力し、六郷と數度戰て勝利を得といへども上方はてに敗し聞て城を開き會津に至る云々美濃國瑞龍寺の城主小野寺弥七郎通元、中江式部少輔景継時田權之助時喜等と共に伊勢國阿濃津の富田を攻落して彼城に入替たるが関ヶ原既に敗と聞て逐電し云々中興武家盛衰記に云々、

幻夢物語に云ふ下野國の住人小野寺右兵衛尉親任と云者有て、上野國の大胡左近將監家詮と争論して家詮を討つ家詮の男花松丸と云少人日光山の竹林坊に在りしが密に小野寺に館に忍入て親任を討て父の仇を報ぜ親任が男小野寺小太郎親次と云者追て付て花松丸を討ふ無常を觀して發心し父の菩提に為り花松父子の跡を懇ふ云々を記す云々さて今日光山に竹林坊と云ふ一日光山坊舍建立記に竹林坊いはゆる比叡山の竹林坊を移す坊名しが今廢し云々西谷に今の奉行屋鋪の邊に有り、

天正十八年小田原の旗下に小野寺善九郎貞綱あり、宇都宮の家臣なり、小野寺小左衛門、小山の家臣小小野寺勝平なり、元禄年中、淺野内匠頭殿の讐を報ゝ、義士の中小小野寺重内秀知、同息幸右衛門秀富あり、今佐竹の家士小小野寺權之助と云人あり、會津の家士小小野寺數馬あり、植村土佐守殿の家士小小野寺半右衛門あり、田安御殿の附衆なる小野寺市郎兵衛と云人あり、是等其末葉なるべし、また當國粟宮の神主、小野寺氏小〻其所藏と古河公方政氏朝臣の下知状あり、文亀三年三月十三日小野寺宮内左衛門尉殿と記し、安房國鋸山羅漢寺の洪鐘銘小下野州佐野莊堀米郷瑞龍山天應禪寺住持沙門大朴玄淳大檀那中務丞藤原通義永德二年十一月廿五日と彫付、是小小野寺家の祈願所小寄置たる物なり、兵乱の刻彼所より持行るものなるべし、

下野國誌十一之卷終

足利　梅溪田崎明義畫
北越　竹邨遠藤順信書